



説教	エリヤからエリシャへ	…… 秋本 英彦 …… 1
教会の課題	向かうべき方向を求めて - 大会歴史編纂委員会として -	…… 五十嵐喜和 …… 2
旧約聖書に聴く	「コヘレト、風と霊と気」	…… 片野安久利 …… 3
信仰問答を学ぶ	小信仰問答の貴重な参考書として - 日本キリスト教会小信仰問答を学ぶ人のために -	…… 高松 牧人 …… 4
目次	教会、この地とともに③ 小樽シオン教会	
	運河の町に福音が	…… 北村 一幸 …… 5
定期中会報告	喜びが希望を拓く	…… 北海道中会 …… 6
	神の勝利の布告に生きる	…… 東京中会 …… 6
	力は弱くても	…… 近畿中会 …… 7
	九州中会に春到来！	…… 九州中会 …… 7
み言葉に照らされて	弟と共に賜った安らぎに感謝して	…… 倉田 保子 …… 8
	教会ニュース	…… 8

エリヤからエリシャへ

エリシャは、「あなたの霊の二つの分をわたしに受け継がせてください」と言った。
(9節後半)

あきもと ひで ひこ
秋本英彦

預言者エリヤも、その使命を終えて天に還る時が近づきました。彼の務めは次世代に生きる弟子エリシャに受け継がれようとしていたのです。エリヤは1節から6節で三度「あなたはここにとどまっています」と語っていますが、エリシャも三度「わたしはあなたを離れません」と応答しています。人は最後一人で死んでゆきます。エリヤに死期を悟った人間の姿を見る思いがします。一方エリシャは断腸の思いで離れられません。別れの時が来ても離れがたい絆がある。親しい人との別離を経験した方は、みな同じ思いになるのではないのでしょうか。F.B.マイアーは「彼らは天地の境界線に立ち、永遠の世界への控え室にあった」と語っています。一方は天に向かい、一方は地上に残る。誰もが時代の分水嶺、時の狭間に立たれるときが必ずくるのです。

遂に二人は別れの場、ヨルダン川に辿り着きました。エリヤは「わたしがあなたのもとから取り去られる前に、あなたのために何をしようか」(9節)と問い、エリシャは「霊の二つの分をわたしに受け継がせてください」(9節)と答えます。二つの分とは長男が受ける相続分を指しています。しかしエリシャは名誉や財産などを求めてはいません。霊的な賜物を求めて「あなたの信仰と生き方を継ぐ者とさせてください」と願ったのです。エリヤは「わたしがあなたのもとから取り去られるのをあなたが見れば、願いはかなえられる」(10節)と、死を直視することが重要だと最後の言葉を語ります。

わたしたちは多くの愛する人たちが天に旅立ってゆくを見てきました。信仰を守り抜き、走るべき

道程を走り通した恩師や友の姿が眼に浮かびます。「日本キリスト教会の信仰告白に根ざした先達の篤い信仰と真摯な生き方を継承する」。これこそが未来に予想される困難を切り拓いてゆく原動力となるものです。天と地にあって今も生きて働く主イエスキリストと愛する人の死を重ね合わせて、一つとされている救いを確証すること。それが新たな時代を前進するために必要な天的恵みです。

エリヤは火の戦車と馬によって嵐の中を天に凱旋してゆきました。そこには死の恐怖や暗さは全くありません。その様を見たエリシャも感動して「わが父よ、イスラエルの戦車よ、その騎兵よ」(12節)と叫びます。やがてはエリシャも死の間際、ヨアシュ王から同じ言葉を受けることになります(列王記下13章14節)。永遠なる神の導きの内に使命・信仰・いのちは引き継がれてゆくものなのです。

荒野にはエリシャだけが、たった一人残されました。彼は自分の衣を脱ぎ捨てて二つに裂きます。これは悲しみの象徴動作ですが、同時に古い生き方を捨てる心の一新も意味しています。さらに形に残ったエリヤの外套を拾い「主はどこにおられますか」(14節)と祈ると、主はヨルダン川の水を左右に分けて答えられたのです。エリヤからエリシャへ、確かに霊のバトンは受け継がれました。

今、「信仰の先達や愛する者たちの生と死を見つめよ。その生き方に倣ってキリストを見上げ、揺らぐことのない信仰をもって新たな時代を生きよ」。神は力強く、わたしたちの魂に呼びかけていると思わされるのです。(北広島山手伝道所牧師)